



発達支援研修通信

第1号



2026.8.4

和光市 保育センター

今年度も、合同会社シャインキッズ代表 井上先生をお招きして、市内の保育従事者を対象に、発達支援研修を開催しています。

第1回目は、近年現場の先生方からご要望を多くいただいている「日々の遊びの中からこどもの発達を支えるポイントや視点」について、『遊びで発達を支援する』をテーマにご講義いただきました。

井上先生の研修は、グループワークや体験を通して実践的に学べる内容となっており、他園の先生方と楽しく交流しながら理解を深められるのも大きな魅力です。

本号では、第1回目の研修の概要と、学びのポイントについてご紹介します。



講師：合同会社シャインキッズ
代表 井上 綾乃 先生



研修の受け方のポイント ～他人事ではなく自分事として聞く～

①

テーマに合わせて
今まで出会ってきた
子どもを思い浮かべる

②

子どもの行動を思い
起こしながら自らの
関わり方も思い出して
みる

③

研修で「なるほど！」
と思ったことを「明日」
または「今日」から実践

④

上手くいかない
場合には、再度
学びを確認



上手くいかなければ、違う方法で試してみる！

発達障害(神経発達症)の特性をもつ子どもたちを見るうえで、大事なこと

- ・「出来ない」のではなく、「今はまだ難しい」という視点で見る
- ・「発達が違うのはあたりまえ」という考え方を根っこに持って支援する



感覚の支援



「走り回る、何でも口に入れてしまう、落ち着きがない、お友だちに手が出る…」

困りごとは、「環境との相互作用（ミスマッチ）」で起こる。

同じ子どもでも、環境によって表出される行動が違う。

➡ その子が持っている資質が、環境（周囲の物や人）に合っているか？を見直す。

固有受容覚 …筋肉や関節がどれくらい伸び縮みしているか、体にどれくらい力が入っているかを感じる感覚。

固有受容覚がうまく働かない子は、無意識に「扉を強く閉める」、「物をガチャン！と置く」などの行動がみられる。感覚の偏りを理解した上で支援することが大事。



←視覚＋固有受容覚を使って、手の形にくり抜いた画用紙に当たらないように手を通す、体験ワークを行いました。



思考のクセ

勝ち負けへの強いこだわりや、自分基準に達しなかった時の感情が大きく乱れる子への支援



・思考の柔軟に繋がる「お守り言葉」

『勝っても負けても金メダル』

・その場を離れてクールダウン

・（イライラを逃すための）クッションパンチ、水筒を飲む、おしぼりで顔を拭く、スクイーズ…

悔しい気持ちは否定しない！



まとめ

『できないと思えば、そこで成長は止まる』

何なら出来る？できそうなことは何？まずは行動してみましょう！

『言葉で100回言うよりも、まずは保育士自身が体験してみる』—その実体験を発達支援の視点で捉え直し、いかに「楽しい遊び」として成り立たせるかが、先生方の腕の見せ所です！

『本人が気付かないうちに、遊びの中で発達を支援していく』

この視点を胸に、その子が「できそう！」と思えることから、ほんの1歩でも、半歩でも、新たな実践へ踏み出していきましょう！



受講者の感想

グループワークを取り入れた内容だったので、体感による学びが出来たことがとても良かった。

違う園の先生たちとの意見交換など、普段関わることのない先生との会話の中から、自分自身の保育を考える機会になった。

S園 K先生

クラスにいる子どもの個性や困り感がそれぞれちがいで、支援に悩むことも沢山ありますが、固定概念や、「こうあるべき姿」にとらわれずに、ていねいに関わっていききたいです。

S園 N先生

井上先生のお話や巡回相談でいただいたアドバイスは、いつも自分の保育の幅を広げていただいています。今回の研修は身になるお話だけでなく、グループワークを通し他園の皆様の悩み事やお話を共有することができたこともありがたかったです。「子どもは遊んで成長する」という、どのように遊びに組みこむかをすぐ実践できるよう、大変だけど楽しいと保育者が思えるようなたくさんの行動をしていこうと思います。

S園 A先生